

平成30年度 学校評価に関するアンケート集計結果(保護者)

福島県立聴覚支援学校

A:十分できている。 B:ほぼできている。 C:あまりできていない。 D:できていない。

回答数70(97%)

自立と社会参加に向けて		A+Bが90%以上	C+Dが20%以上	A	B	C	D
1	学校は、教育的ニーズや合理的配慮について保護者やお子さんと共通理解を図り、個に応じた指導を行っていますか。	35.8	59.7	4.5	0.0		
2	学校は、中学部・高等部の学科や学習内容、また、高等部卒業後の進路に関する情報を提供し、子どもたちの実態に応じて、将来の進路や職業について指導していますか。	35.4	53.8	10.8	0.0		
3	学校は、交流及び共同学習を実施していますか。今年度、幼稚園ではひまわり保育園との交流会、小学部では大槻小学校との交流及び共同学習(学年交流・クラブ活動)、中学部では片平中学校との共同学習や部活動の練習試合、高等部では部活動の大会での交流や「生徒会長サミット」による交流活動を行いました。	36.9	53.8	9.2	0.0		
4	寄宿舎は、自立に向けた生活習慣を身に付けるため、個に応じた生活指導を行っていますか。(寄宿舎生のみ)	48.0	48.0	4.0	0.0		
主体的・対話的で深い学びと豊かな心の育成							
5	学校は、子ども達が主体的に考える授業を通して、一人一人の学ぶ力を育んでいますか。	40.9	54.5	4.5	0.0		
6	学校は、「図書だより」などの広報活動や、図書館や図書コーナーの環境を整えるなど、読書活動を推進していますか。	30.8	60.0	9.2	0.0		
7	学校は、奉仕体験やボランティア活動、係活動等に積極的に取り組み、子ども達の豊かな心を育んでいますか。(幼小小学部では自分で行えることから学級や学部のための係活動や児童会活動、中高等部では生徒会活動やボランティア活動を設定しています。)	36.9	60.0	3.1	0.0		
8	学校は、食育を通じて発達段階に応じた栄養のバランスや食事のマナーについて指導したり、心身の健やかな成長及び健康の保持増進について指導したりしていますか。	39.4	57.6	3.0	0.0		
言語力と自己指導能力の育成							
9	学校は、聴覚障がい教育に関する研修を行い、教員の専門性の維持・向上に努めていますか。(学校では、教員の専門性向上を目的とした基本研修会(年3回:補聴器や人工内耳等、福祉制度、ことばの学びについて、等)、手話研修会(年4回)、ミニ研修会(月1回:きこえについて、手話表現、等)、指導力・授業力の向上を目的とした専門研修会(年2回:外部講師を招聘した授業研究等)などの研修をおこなっています。)	46.9	46.9	6.3	0.0		
10	学校は、発音指導、聴覚や手話を活用した指導を個々に合わせて行っていますか。	40.0	47.7	10.8	1.5		
11	学校は、一人一人の実態を踏まえて教員間で連携して指導していますか。	38.5	53.8	7.7	0.0		
安全で安心な学校づくり							
12	学校は、社会のルールやマナーを守り、自ら考えて行動する力を育てるための指導をしていますか。	47.1	55.4	9.2	0.0		
13	子どもたちは、楽しく学校に通っていますか。	55.4	41.5	3.1	0.0		
14	学校は、避難訓練や交通安全教室等をととして子どもたちが安全に生活するために指導するとともに、個人情報の管理を行っていますか。	38.5	58.5	3.1	0.0		
15	寄宿舎は、子どもたちの健康の保持と安全の確保を行っていますか。(寄宿舎生のみ)	46.2	42.3	7.7	3.8		
16	学校は、防災教育や放射線教育について取り組んでいますか。	32.3	58.5	7.7	1.5		
センター的機能の充実							
17	学校は、地域や保護者へ専門性を活かした支援を行っていますか。	27.7	63.1	6.2	3.1		
18	学校は、関係機関と連携し、基本研修会や保護者を対象としたまなびあいサロンなどの聴覚障がいに関する研修会を開催していますか。	35.4	56.9	7.7	0.0		
19	学校は、通信やホームページで学校の取り組み状況を知らせていますか。	40.0	53.8	6.2	0.0		

【学校評価アンケートより へ来年度に向けて】

○将来の進路や職業についての指導に関して学年により評価の傾向に差異が見られました。早い段階から進路に対する意識を高められるよう、学部間の連携を図るとともに、目標を明確にし、それに向けた指導の充実を図ります。

○読書活動については児童生徒の評価が低い傾向が見られます。特に、学年が上がるにつれその傾向は大きくなります。興味をもって読書に取り組める環境作りを行いながら、言語力や自己指導能力の育成と併せて読書活動を推進していきます。

○校内の美化活動については、昨年と比較して児童生徒の評価の向上が見られました。今後も、奉仕体験やボランティア活動に積極的取り組める環境を作りながら、児童生徒の自主的な活動を推進していきます。

○研修会を計画的に開催し、専門性の向上を図っています。幼児児童生徒の実態を踏まえつつ、専門性を生かした指導を行います。

【保護者からの意見要望に関して】

○学校、寄宿舎間の連携についてのご意見がありました。今後も学部や担当者間において、学習・生活それぞれの場における生徒の情報を共有しながら指導に当たっていきます。

○学習内容や学力向上に関する意見・要望がありました。今後もそれぞれの学部において学習内容等について精査するとともに学部間の共通理解を図り、将来の進路を見据えながら指導に当たります。

○学校の施設設備等について、ご意見ご要望がありました。幼児児童生徒が安全に学校生活を送れるよう計画的に整備を進めていきます。